

# 下関市慣行追加制定(案)

## パブリックコメント

### 目 次

下関市慣行の追加制定について(案)

[資料]

1. 制定の目的・背景
2. 現在の市の慣行
3. 下関市とクジラ
  - ①近世以前の下関とくじら
  - ②下関と近代捕鯨
  - ③くじらのまち日本一を目指して

下関市総合政策部企画課

## 下関市慣行の追加制定について（案）

下関市の慣行として、以下を追加制定する。

# 下関市の動物 クジラ

## 1. 制定の目的・背景

下関市は近代捕鯨発祥の地と言われ、かつて捕鯨の基地として栄えました。現在でも、鯨類捕獲調査船団の入出港が行われるなど、下関市はクジラと深い関わりがあります。

下関市では「くじらのまち日本一」を目指して各種の取り組みを行っていますが、その一環として、「市の花（ハマユウ）」や「市の木（クスノキ）」などと並んで、「市の動物」をクジラに制定するものです。

### くじら文化発信事業

- ・くじら文化の普及・啓発
- ・情報発信

「市の動物」をクジラに！！

- ・アンケート
- ・パブリックコメント
- ・下関市慣行策定委員会（審議会）

くじらのまち日本一

# 資料

## 2. 現在の市の慣行 ※6項目7種類を制定しています。

<p><b>市の花 ハマユウ</b></p> <p>ハマユウは、日本の暖地海岸に分布する常緑の多年生草です。ハマユウを中心とした吉母海岸植物群落は市指定文化財、県指定の天然記念物です。</p>	
<p><b>市の木 クスノキ</b></p> <p>クスノキは、市内に広く分布し、環境に強く寿命が長い木です。豊浦町にある「クスの森」は、国の天然記念物です。</p>	
<p><b>市の花木（かぼく） ツツジ サクラ</b></p> <p>ツツジとサクラは、市民投票で多くの票を集めました。下関市内のいたるところで目にすることができ、広く親しまれている花木です。なお、ツツジ、サクラに関しては、個別の品種ではなく、総称としての名称を採用しました。</p> <p>ツツジは、低地から高地まで広く自生し、常緑、落葉の低木です。公園など市内各所に咲き色鮮やかです。</p> <p>サクラは、日本の代表的な花として広く親しまれています。</p>	 
<p><b>市のシンボルマーク フクフクマーク</b></p> <p>フクを愛らしく、親しみやすく表現しています。囲みの円は下関の頭文字「し」とダイナミックな海の波を表しています。</p>	
<p><b>市の魚 フク</b></p> <p>フクは、取り扱い量日本一を誇る下関市を代表する魚です。</p>	
<p><b>市の虫 ホタル</b></p> <p>下関市においてホタルに関する保護条例を制定しています。また、豊田町にはホタルの里ミュージアムがあります。</p>	

## 3. 下関市とクジラ

### ①近世以前の下関とくじら

- ・ 弥生時代中期 鯨骨製のアワビオコシを使用（吉母浜遺跡より出土）。
- ・ 1185年 源平壇之浦の合戦でイルカが勝敗を占う。
- ・ 江戸時代頃 長州捕鯨により捕獲されたくじら（鯨油、鯨肉、鯨骨等）の、北前船等を通じた集散・流通基地に。  
問屋や鯨組から得た鯨運上銀が、幕末に倒幕資金に使われた。

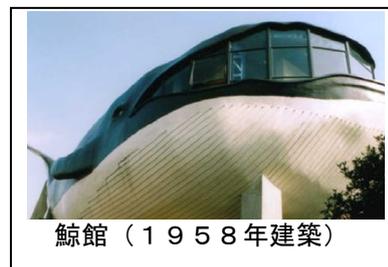
※長州捕鯨：1570～73年に北浦を中心に始まった突取り（後に網取り）式の捕鯨。

### ②下関と近代捕鯨

- ・ 1899年(M32) 岡十郎・山田桃作により日本初の近代式（ノルウェー式）捕鯨会社である日本遠洋漁業（株）下関出張所設立（本社は現・長門市仙崎）。  
——日本近代捕鯨の幕開け（近代捕鯨発祥地の所以）
- ・ 1922年(T11) 中部幾次郎が林兼商店捕鯨部（後の大洋漁業（株））を新設し、近海捕鯨に乗り出す。
- ・ 1936年(S11) 林兼商店捕鯨部が大洋捕鯨（株）を設立。南氷洋捕鯨に乗り出す。
- ・ 以後、日本一の捕鯨会社である大洋漁業（株）の南氷洋捕鯨冷凍鯨肉の水揚げ地、鯨肉加工品の生産拠点、捕鯨船の基地として、関連産業と共に水産都市発展の一翼を捕鯨産業が担う。

※昭和30年代後半には鯨製品の生産額だけで約50億円（下関市全体の食料品出荷額の約30%）にも及び、大洋漁業（株）の捕鯨船建造や捕鯨関連産業等の関連会社10数社が本社や工場を置いた。

- ※1987年(S62) 商業捕鯨一時停止。その後調査捕鯨に移行後、下関は目視採集船の基地となる。



鯨館（1958年建築）

## ③くじらのまち日本一を目指して

- ・ 1998年(H10) 南極海鯨類捕獲調査船団一般公開及び合同出港式開催。  
※以後、継続して下関から出港（合同出港式は2007年(H19)まで実施）。
- ・ 1998年(H10) 鯨肉給食の復活。
- ・ 2001年(H13) 鯨をイメージした外観を持つ新水族館・海響館開館。  
シロナガスクジラの骨格標本を展示（国内唯一）。
- ・ 2002年(H14) IWC（国際捕鯨委員会）下関年次会合開催。
- ・ 2003年(H15) つのしま自然館開館。ツノシマクジラのレプリカ展示。  
※ツノシマクジラ：1998年(H10)に角島の漁師の漁船と衝突し、対岸のホテル西長門リゾートの前に打ち上げられたクジラ。2003年(H15)に英国科学雑誌『ネイチャー』に新種として発表された。
- ・ 2005年(H17) 第4回日本伝統捕鯨地域サミット、下関にて開催。
- ・ 2005年(H17) くじら食文化を守る下関市民大会開催。  
※以後、2009年(H21)までに計5回開催。
- ・ 2007年(H19) 下関・長門鯨文化交流事業推進協議会設立。
- ・ 2007年(H19) 引退した目視採集船「第二十五利丸」、下関漁港に係留展示（←2002年(H14)下関市に寄贈）。
- ・ 2010年(H22) 鯨類の持続的利用に関する会合、下関にて開催。
- ・ 2011年(H23) 「学校給食・関門交流の日」開催。北九州市の小学校にて、下関市ゆかりの「オーロラくじら」が給食として出される。
- ・ 2011年(H23) 北西太平洋鯨類捕獲調査船団壮行会開催。

